

南会津支署について

1 南会津支署について

南会津支署は福島県南会津郡南会津町南郷地区（旧南郷村）にあります。南会津町（南郷、伊南、館岩の旧三村。旧田島町を除く。）、只見町及び檜枝岐村の国有林、約 11 万 H a を管理しています。これは関東森林管理局管内の森林管理署・支署の中で最大の管理面積となります。福島県だけでなく新潟県の水源にもなっている当地には、緑豊かな手つかずの自然が残されており、管内の国有林の大半が尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園などの自然公園、奥会津森林生態系保護地域などに指定されています。

尾瀬国立公園にそびえ立つ燧ヶ岳は東北地方最高峰となる標高 2,356m をほこり、尾瀬沼から見上げるその景色は尾瀬の風物詩。支署管内では会津駒ヶ岳（2,133 m）とともに日本百名山に名を連ねており、多くの訪問客を魅了します。また、尾瀬国立公園内にある田代山の頂上には全国でも珍しい台地状の湿原が広がります。管内には木賊温泉など数多くの天然温泉もあり、夏は登山客の疲れを癒やし、冬はスキー客の体を芯から温めてくれます。



尾瀬沼越しにそびえる燧ヶ岳

支署管内はかつて天領であった時代に、農民による歌舞伎が隆盛を極めたと言われています。中でも国の重要無形民俗文化財に指定されている檜枝岐歌舞伎が有名ですが、南会津町大桃地区にも「大桃の舞台」が残されており、檜枝岐の舞台とともに国の重要有形民俗文化財に指定されています。どちらの舞台も毎年、公演が行われており、多くの観光客が訪れています。



㊦大桃の舞台、㊦檜枝岐の舞台（出典：南会津地方振興局）

2 南会津の売り「カラマツ」

南会津支署の木材生産量は年間約 3,000 m³ で決して多くはありませんが、スギ、カラマツを主体に、製材工場や合板工場などと協定を結んで、安定的・計画的に供給するシステム販売や地元市場での販売により、木材の安定供給に努めています。また、福島県南会津農林事務所が事務局を務める「南会津地方木材安定供給連絡会議」



南会津木材市に出材したカラマツ

(南会津支署後援) が南会津町だいくらスキー場で年2回開催している南会津木材市にも、民有林と国有林の連携を深めていく取組の一環として出材しています。

当地は日本でも有数の豪雪地帯。斜面に植えたスギは雪の重みで根元から曲がってしまうことが多い上、幹の内部が変色・腐朽する被害が発生しやすいことから会津スギの材価は低くなる傾向にあります。一方、カラマツはスギ同様、木の根元から曲がって通直でない素材が出やすいものの、厳しい環境下で育った南会津産カラマツは他地域産のカラマツよりも強度が高く、通直に育った材の価格はスギを大きく上回ります(例:カラマツ約12,000円、スギ約9,000円など)。スギをカラマツに植え替えていくことで花粉症対策になること、カラマツは合板などの建築材だけでなく、尾瀬国立公園などで使用される木道の材料としても重宝するため地域からの供給要望も大きいことから、今後はカラマツに重点を置いた森林整備を目指して行くこととしています。

3 生態系保全の取組

当地域では森林が自治体の施策や地元住民の生活と密接に関わっています。檜枝岐村は村の面積の約4割が尾瀬国立公園に指定されており、只見町は2014年にユネスコエコパークに登録されています。豊かな自然が各自自治体のシンボルとなっており、観光資源としても重要な意味合いを有することから、当支署では森林整備と並んで生態系保全の取組にも力を入れています。その一部をご紹介します。

只見町では昨今、カシノナガキクイムシ(以下「カシナガ」という。)という昆虫がナラの木の幹に穴を開けて病原菌を運ぶことで木が枯れてしまう「ナラ枯れ」が蔓延しており、国有林でも被害が確認されています。当支署ではカシナガの飛散を防ぎ被害の拡大を食い止めるため、国有林内でおとり丸太によるカシナガの誘引捕殺を行っています。これは、殺菌剤を樹幹に注入した複数の丸太(ナラ)に、カシナガが好むフォロモンを設置してカシナガをおびき寄せ(誘引)、丸太に入り込むカシナガを殺菌剤の効果により殺す(捕殺)というものです。カシナガが侵入した穴の数(爪楊枝が刺さる穴をカシナガの侵入とみなしてカウント)により誘引捕殺数を推測し、効果を検証します。この取組には毎年、山形県林業試験センターの齋藤主幹のご協力をいただいております。齋藤主幹からは、一定の蔓延防止効果が認められるとの見解を得ています。来年度以降も引き続き実施し、「自然首都」を標榜する只見町の生態系保全に貢献していきたいと考えています。



齋藤主幹によるおとり丸太の説明

また、尾瀬国立公園ではニホンジカがその数を増やしており、H20年頃から尾瀬の看板ともいえるニッコウキスゲをはじめとする高山植物が食べられる被害が拡大しました。南会津支署では、平成26年から尾瀬国立公園内の福島県側に所在する大江湿原に総延長約3.5kmのシカ柵を設置しています。平成29年度にはシカの侵入防止効果を高めるため、シカ柵を更に100m延長



防鹿柵延長設置作業に40名以上が参加

しました。設置当日は、尾瀬国立公園の生物多様性の保全再生等を目的に設立された「南会津尾瀬ニホンジカ対策協議会」の呼びかけにより、地元檜枝岐村、尾瀬保護財団などの協議会構成員のほか、ボランティアの方や環境省・県の関係者、南会津町議会や昭和村の方などにも参加いただき、総勢 40 名以上で設置作業を行いました。尾瀬の自然を守っていく上で大きなステップになったと考えており、今後も、大江湿原の豊かな自然の保護に協力していきます。

4 NPO「南会津森林ネットワーク」

豊かな森林資源を有していながら、それを十分に活かせていない、そして進む過疎化。いまや日本の多くの山村地域が抱える課題です。南会津地域も例外ではありません。

当地域はかつて日本でも有数の広葉樹の産地として名をはせていましたが、時代の変遷とともに地域林業が衰退した過去があります。このような中で地域に眠る森林資源に注目し、今一度南会津地域の林業を再興しようと地域の林業関係者が 10 年ほど前から活動を開始しました。平成 22 年には地域材の有効活用やそのブランド化を目指して NPO「南会津森林ネットワーク」



月に一度のMMN定例会

(以下「MMN」という。)が立ち上げられました。MMN は毎月定例会を開いて、公共建築物等における木材利用に関する情報共有やメンバー間での木材の融通などの相談を行っています。地域林業を真剣に考える場として早くから森林認証の取得を検討し、南会津町の町有林でそれを実現(477ha)したほか、平成 29 年 7 月に竣工した南会津町役場の建設でも大きな力となるなど、時に個々の利益を度外視した取組を進め、林業の枠を飛び越えて地域振興にも貢献しています。

MMN の定例会には町(南会津町農林課)、県(南会津農林事務所)、国(南会津支署)といった行政も参加しています。参加メンバー間の業態や特性が比較的ばらけていたこと、そして県外から来た若き事務局長松澤瞬氏の切り盛りの良さから MMN 内の連携が高まっていき、行政もそれに応じて、それぞれの立場から林業に関する新たな施策情報などを持ち寄るようになり、地域林業に有効なものはどんどん取り上げていこうという機運が高まっていきました。

5 林業成長産業化推進会議

南会津町は以前から林業振興に熱心な町です。町農林課には林業専任の職員が複数配置されています。「まち・ひと・しごと創生法」に基づき平成 28 年 3 月に策定した、南会津町まち・ひと・しごと創生総合戦略『南会津町地元回帰作戦～育むチカラ創生戦略!～』では、林業総生産額の向上と新規林業従事者数の増加を目標に掲げ、林業での雇用創出や間伐材の利用促進など独自の施策を講じて林業振興に取り組んできました。

平成 28 年 11 月、南会津町農林課と南会津農林事務所、南会津支署の 3 者が南会津町の林業振興を目的と



林業成長産業化推進会議設立総会

した検討会を開催し、県と国がそれぞれの新規事業を紹介しながら3者で協力して取り組むことが出来ないか、協議する機会がありました。その中で、林野庁の平成29年度新規事業「林業成長産業化地域創出モデル事業」に関係機関で応募する案が出され、その後行政やMMN、南会津森林組合の5機関で何度も検討を重ねた結果、南会津町を主体として地域全体で応募することとなりました。その後福島県庁などのアドバイスも得ながら応募にこぎつけ、平成29年4月28日、南会津地域は全国で16地域が指定された林業成長産業化地域の一つとなりました。

南会津町は地域指定を受けて「南会津町林業成長産業化推進会議」（以下「推進会議」という。）を立ち上げ、平成29年6月23日に開催した全体総会で、町内の林業事業体をはじめとする推進会議参加者に対し今後推進していく取組を説明しました。その後参加者によるワーキンググループ会合を開催してテーマごとに12の分科会を設置し、現在、各分科会の下で具体的な取組について協議が進められています。

推進会議は平成33年度までの5年間で林業従事者を約80人増加させるなどの目標を掲げています。南会津支署としても推進会議の運営を支援しており、その一環として、平成29年9月に木材の生産性向上に向けた現地検討会を森林管理局と共に開催しました。引き続き積極的に推進会議を支援していきたいと考えています。

6 おわりに

南会津地域、特に支署が管轄する地域は深刻な人口減少に直面しています。国の機関がこの地で業務を行う意味は何か、職員一人一人が考えることが大切だと思っています。人口減少を止めることはできなくても南会津に魅力を感じ移り住む人を少しでも増やす。そのためにも森林・林業における雇用を少しでも生み出し、人が住み続けることで、この地域を未来に渡って守っていく。南会津に限った話ではありませんが、今こそ地域が垣根を越えて力を合わせて取り組んで行くことが大事だと痛感しています。これからも当支署はこの精神の下、地域に貢献する存在としてがんばっていききたいと思います。



12の分科会で具体的な取組を議論



国有林主催の生産性向上検討会